

ITU事務総局長の任を終えて

トヨタ自動車株式会社 顧問 (前国際電気通信連合 (ITU) 事務総局長)

うつみ 善雄
内海 善雄



はじめに

御紹介いただきました内海でございます。国際電気通信連合 (ITU) の事務総局長を8年間大過なく過ごさせていただきました。この場をお借りしまして、皆様方の御支援に感謝申し上げます。8年間いろいろなことがありましたけれども、本日は、よそではあまりお話しすることのない、苦しかったことについてお話させていただきたいと思っております。

一緒に仕事をする喜びが理解されない

日本では、何をやるにしても、仲間がいます。私が役所にいたときは、これをやろうと言うと、スタッフがサーッと準備をし、そしてみんなで分担して永田町を走り回る、あるいは他省へ交渉に行くというように、仲間として一緒に仕事をしてきました。話をやるにしても、一言か二言いえば十分意は通じる、そういう世界でした。また、結果に対してそれなりに評価してくれる。上司や周囲の人たちも、仕事の仕方を見ていてくれます。周囲の人たちが見ていてくれると、非常にやりがいというか、仕事をする上での原動力にもなっていたと思っております。

ところが、ジュネーブのITUで仕事をする場合、懇切丁寧に説明しても通じません。それは言葉が通じないのではなく、価値観が通じないのです。日本では、どなたでも同じだと思うのですが、自分個人の利益だとか「私」とかいうことは実際にはあったとしても、表には出さずに「公」、組織の利益、国の利益ということで発想し行動されているのではないのでしょうか。ところが、ITUでは、ITUのために思ってやっているのだということを話しても、相手はそうは考えないのです。全部、あいつは自分の利益のためにこんなことを言っていると解釈して、逆にとってしまうのです。

2006年10月に出版しました私の著書「“勝つ”ための国際交渉術教えます!」の中にも書きましたが、インドでは、非常に過酷な環境の中で動作する小容量交換機を作っています。技術的に見れば大したことはないのですが、ホコリがあっても高温のところでも動作するというので、アフリカなどに結構売れています。それを一生懸命作って売っているという姿を見て、私は大変感激しました。ジュネーブに帰ってきて

ITUの職員に、「インドではみんなが非常に劣悪な環境の中で、一生懸命こういう商品を作って売っている」というメールを出しました。職員とのコミュニケーションを図ろうということで、数年間、毎週メールを出していたのです。その中の一コマとしてそういうメールを出したのですが、職員からの反応がすごく悪いのです。どうしてかと思って、後で話を聞きますと、あのメールは、「内海は、ITUの職員が全然働かないと言っているのだ。だから、インドと同じように働けという意図でメールを出したのだ」というわけです。「内海はあんなメールを出してけしからん」と、職員たちは言うのです。私はそういう意図ではなくて、インドではこんな良いことをやっているよ、こんな事例をみんなに知らせたらいいなと思って、純粋な気持ちで書いたメールが、そういうふうにとられてしまいました。

例を挙げたら切りがないのですが、そういうことが続いたので、メールを出すことは一利もなく百害ありとやめてしまいました。そして数年後には、職員とは積極的に接点を持たない方がうまくいくとを感じるまでになりました。そんなわけで、何でも一人で仕事をする、仲間がいない、やってくれる人がいない、フィードバックがないという、こういう世界でした。それが一番辛かったことです。人間というのは、仲間と一緒に仕事をする喜びを、そうではないところへ行かないとわからないのではないかと、思います。

日本の良さを痛感

サウジアラビアへ行きましたら、一生懸命木を植えている。サウジアラビアは、御承知の通りクウェートと並んで、一人当たりの国民所得が世界一のお金持ちの国ですが、必要な水をやるために、木1本当たり年間何十万円というお金がかかります。外交官たちが住んでいる地区には、そうして植えられた木がたくさんあるので、サウジアラビアの人たちは、外交官が住んでいる家の前へピクニックに行きます。そして、木の下で食事をするということが行われています。ピクニックに来ている人は結構なお金持ちなのですが、自分のところには木がない。それに引き替え、日本はどこへ行っても木がある。しかも、工事というのは木を切って平らにするのが日



本の社会です。

申し上げたいことは、違う世界にいるとわかる日本のとても良い点を、日本にしていると感ぜないまま見過ごしてしまうということです。8年間、違う世界から日本を見ていて、外国にも良いところは多々ありますが、やはり日本は本当に良い国だと感じました。

日本もちょっと住みやすくなった

ジュネーブにいたときは、大半の仕事はフランス語でしたから、何か通じたような、通じなかったような感じがありましたが、日本に帰ったらすべて日本語で、楽な生活ができると思っていました。

帰国して、すぐにいろいろな手続きをしました。まず区役所へ行って、転入届を出して住民票をもらって、その住民票を持って、揚々と携帯電話の加入に行きました。そうしたら、

免許証を持っているかと言うわけです。住民票には写真がないからと言うのです。免許証を出したら、今度は免許証の住所と住民票の住所とが違うと言うのです。今、区役所へ行って、この住民票をもらってきた、日付けは今日でしょうと言うのですが、携帯電話会社は駄目だと言うのです。では、パスポートを持っているかと言うから、はいありますよと、パスポートを見せると、パスポートの住所が免許証の住所と違っているから、駄目だと言うのです。もう大げんかでした。大げんかをした後、とうとう担当の若い女性はどこかへ電話をかけて、「こんなこと言っているお客さんがいるのですけど…」と。結局、何とか電話に加入させてもらうことになったのですが、8年間の間に、日本もちょっと住みやすくなったのかな（笑）と、感じもしました。

本日は、御静聴誠にありがとうございました。

(2007年2月23日第354回ITUクラブ講演より)



帰国歓迎の花束を受けとる筆者